平成３０年度第１回石巻市震災復興推進会議　会議録

１　日　時　　平成３０年８月６日（月）１８時３０分～２１時１０分
２　場　所　　石巻市役所４階　庁議室
３　出席者
【委員】２２名（別紙参照）
【オブザーバー】宮城復興局石巻支所、宮城県東部地方振興事務所
【当局】市長、復興政策部長、半島復興事業部長、福祉部長、産業部長
復興政策部次長、市街地整備課技術課長補佐、半島拠点整備推進課長
生活再建支援課長、商工課長、河川港湾室長

４　会議概要
会議に先立ち、市長から委員に委嘱状の交付を行った。

（１）　会長及び副会長の選出について
市長が仮議長となり、会長に小野田委員、副会長に横江委員を選出する。

【会長あいさつ】
この会議は、市が中心となって進めている復興事業を市民の皆さんが監視する、管理する、皆さんが主役の非常に重要な会議。会長として下支えさせていただく。平成３３年３月３１日までよろしくお願いしたい。
委員２５名のうち１０名の方が新任となっている。３分の１が新しいメンバーとして、石巻の復興を見ていただくということになる。
石巻市は最大の被災を抱えている自治体で、頑張って復興事業を進めているが、物が建つのが目的ではなく、そこで人が誇りを持って生活をして、未来に希望をつなげられるような環境をつくるということ、お金が回って、人が動いて、心が豊かになる、そういう目的が達成できそうかどうか。それぞれの立場から、忌憚のないご発言をいただければと思う。

（２）　報告事項
ア　復興事業の進捗状況について
（追加資料及び資料１～３に基づき復興政策課長が説明）
【委員】
雨水排水について、電源喪失するとか、自家発電機で電源を確保する場合、エアが噛んで燃料が送れなかった事例があった。対策は確保されているか。
【復興政策課長】
非常電源設備については情報を持っていない。調べて、できれば会議中に回答したい。

【会長】

市役所周辺について、懸案だったささえあいセンターが動き出すということだった。病院、福祉等の連携については大事なことである。国も事業を整理中だが、ソフトが大事である。その辺の見通し、進捗状況は。

【福祉部長】

ささえあいセンターは、次世代の地域包括ケアの拠点施設として活用していきたい。また、津波復興拠点ということで、地域力の復興のための活動の場としたい。市民との協働での利用、利用形態については現在協議を進めているが、目的に合った形で平成３２年度の施設利用開始に向けて準備を進めたい。

工事の着工の目途が立っているので、まずはそちらの方を進め、施設の具体的な活用方法については、これから煮詰ながら進めていきたい。

【会長】

運用に合わせて中の設えも追随すべきと思う。遺漏のないように進めていただければと思う。

【部長】

実施計画等で設計も確定しているが、皆さんにご利用いただけるような施設にしたいと思っているので、配慮していきたい。

（３） 意見交換

ア　半島拠点地区整備事業について

（資料４に基づき半島拠点整備推進課長が説明）

【委員】

工事期間に事故無く終えるように頑張ってほしい。ホエールランドについて、既存の第１６利丸はかなり傷んでいる、また、地盤沈下があり、船尾のブロックが沈んでいる。雨水対策をよろしくお願いしたい。

【半島拠点整備推進課長】

事業スケジュールについては、これから上物施設の整備があり、また、基盤整備も残っている。いろんな事業が集中しているので、事業調整や工事調整等について留意しながら、また、周りの方々に迷惑をかけないように配慮しながら進めていきたい。

第１６利丸の利活用については、昨年度に調査をしたところ、かなり傷んでいるようだった。現在、詳細調査をしているところであり、今月、来月には結果が出る予定である。その結果を踏まえながら、どのような利活用が望ましいのか。大きく雄大な、なかなか見ることができない歴史のある物だと思うので、できるだけ有効利用したいと考えており、市役所内の関係部署と、地元調整も踏まえながら方向性を検討していきたい。

【会長】

よくここまで調整してきたと思うが、最後まで対応を間違えずに地元としっかり話し合い、魅力ある環境にして、事業者の方が勇気を持って安心して商売できるようにしなければならないので、丁寧に進めていただきたい。

【副会長】

観光物産交流施設というのは、ホエールランドのような展示を中心としたものになるのか、それとも水族館のような観光、学習も兼ねるような施設になるのか。網地島航路は歴史的なところであり、海洋教育の拠点になるところであると思う。駐車場はどのようになるか。

【半島拠点整備推進課長】

各施設の状態だが、観光物産交流施設については、地元で商売していた方、物販飲食を中心としたテナントが入る。また、観光情報や震災伝承に関する情報発信という機能も合わせた施設と考えている。

ホエールランドは、災害復旧を基本としながらも、見せ方については詰めていきたい。

自然を活かした活動については、環境省のビジターセンターが拠点の中にできる。これまで牡鹿地区に無かった新たな施設ができる。利活用としては、地元の意見を聞きながら、ここが核となって、牡鹿の魅力を体験でき、実際の地域を観て、学んだり、体験したりという活動になるだろう。航路については、観光物産交流施設の中には舟券を販売する施設も入る。目の前に桟橋もある。役割としては、陸の窓口でもあり、海の玄関口にもなる。

【会長】

教育資源としても重要な、価値のある施設になるということを背景に質問されたと思う。大事なことなので、教育委員会、地域の小中学校と連携して進めていただきたい。

【半島拠点整備推進課長】

駐車場について、建物脇の部分と自立再建側の駐車場、合わせて約１００台程度は確保できるかと思う。イベント時には、広場等の多様な活用について、地元との調整になるかとは思うが、いろんなタイミングで駐車場としても有効利用できるように調整していきたい。

【委員】

雄勝の硯、スレートを活かした造りということで、考えていただいてありがたい。多目的グラウンドが、野球もサッカーもできないとのことだった。

【半島拠点整備推進課長】

野球をするには狭い。予定しているスペースの中でどのような運動を楽しくできるのか、体育振興についても検討していきたい。地域全体の中でのスポーツの在り方については、重要な要素である。調整していきたい。

【委員】

雄勝小中学校の校庭も狭い。雄勝町は住民が４分の１に減り、野球をやる人もあまりいないかもしれないが、野球が盛んな地域なので、試合もできないというのは差し障りが出てくるのではないか。

雄勝イベントの時の駐車のキャパシティはどのくらいか。

【半島拠点整備推進課長】

スポーツについて、野球は内野ぐらいの大きさで、少年野球を含め、野球をするには狭い。今後、いろんな検討を住民の方々の声を聴いて、北上地区のグラウンドの活用等いろ

いろ考えられると思うが、被災元地の利活用を検討する部分もあるので、現時点でそこにできるとは言えないが、スポーツ振興としての土地利用も考えていきたい。

イベント時の駐車場について、図面を見ると、不足するということもあるかもしれない。地域全体の中で駐車場の在り方については、今後の管理運営を検討する際に、貴重なご意見として検討していきたい。

【会長】

イベント時を常態に考えると、普段が閑散としてしまうというのもある。地元の方と具体的な検討はされているのか。

【半島拠点整備推進課長】

具体的にはこれから。私たちもイベント時の駐車場は心配しており、総合支所に確認したところでは、周りの市有地の有効利用や、多目的グラウンドを駐車場に使う等もあるかと思う。今後、管理運営を検討していく中で詰めていきたい。

【委員】

雄勝の体育館は２階建てとなっているが、どのようなすみわけで２階建てになっているか。中学校は下が球技、上が武道場。１階と２階の種目は。

【半島拠点整備推進課長】

資料で２階建てとなっているが、フロアとして２階建てという意味ではなく、体育館なので高さがあるので、上に周回できる部分がある。フロアという意味では１階にバレーボールができるサイズのフロアがあるということになっている。

【委員】

ホエールランドについて、捕鯨の文化を伝承することについて、捕鯨は圧力団体等もいて国際的には悩ましいが、日本人の文化として、食文化を守っていく、その延長線上にあるということをきちんと紹介できるようにしておくと、後々変な指摘を受けずに済むと思うが、そういった要素を入れられるかどうか。

【半島拠点整備推進課長】

旧施設でも多様な展示がされていた。その経過も踏まえながら、歴史的な部分、牡鹿がどのように栄えてきたか、捕鯨が大きな要素であったということを聞いている。そういった学ぶということのほか、楽しく、また来たいと思えるような、そして、年齢を重ねればまた別の視点で楽しめるといった、多様な発信ができるように、皆さんのご意見をいただきながら最終的な詰めをしていきたい。

【会長】

市への思いがある人の意見を踏まえて、小綺麗だけど中身のない施設にならないようにお願いしたい。

【委員】

北上地区では、５年以上前から住民ワークショップを行っており、おおよそ住民の意向が反映されている。しかし、総合支所は住民が内部について揉むということはなかったが、一度集まったことがあった。公民館と複合になるということで、オープンにできる部分とクローズにする部分をしっかり管理できるのか。これから人口が減少する中で、総合支所

の機能もこれから少しずつ変わってくると考えると、５年後、１０年後にどのように機能転換していけるかということも踏まえて、総合支所も実施設計の段階で住民との意見交換できる場ができればいいと思う。

駐車場について、白浜海水浴場と観光物産交流センターが既にオープンしているが、駐車場が狭い。海水浴場では隣のミラーにひっかかるくらい。観光物産交流センターはバスの区画がなくて困っている。バスを迎えるための人を配置しなければならない。車いすのための駐車場もない。これから作る牡鹿、雄勝については、その辺を再確認した方がいいと思う。

ビジターセンターは北上にもあるが、環境省なので、外来種は敷地内に植えられない。当初は芝になるということでワークショップではイメージしていたが、実際今は土のままで雑草が生えている。牡鹿は大丈夫か。

物産施設について、北上は住民ワークショップをほとんどしないで完成している。食品を売るためには保健所の規制があるが、誰が何を売りたいかをしっかり把握して、保健所の手続きも想定した上で設計した方がいい。

【半島復興事業部長】

白浜海水浴場の駐車場は狭かったと反省している。鮎川と雄勝は十分に検討していきたい。外来種が牡鹿でどうかについては、聞いたことがなかった。今後詰めていきたい。いろんな意味で皆さんが使い勝手がいいということで進めていきたい。

牡鹿のテナントについては、協議させていただいているところであり、ソフトについて今後どうしていくか、入るテナントや支所と相談していきながら、いろんなところでこんなことが起きているということを実現していきたいと思う。寄り添っていければと思っているのでよろしくお願いしたい。

【会長】

北上はコミュニティが進んでおり、北上でやっていることが牡鹿や雄勝ですぐにできるということではないと思うが、横の連携をして、その辺を踏まえて、ハードとソフトを調整していければいいと思う。

イ　被災者自立再建プログラムについて

（資料５に基づき生活再建支援課長が説明）

【委員】

仮設住宅の状況について、粛々と進んでいると思いながら、じちれんでも毎週お茶会をやっている。中津山団地が８月半ばでなくなるということで、現在は６か所で行っている。私が考えているよりも進んでおり、感謝している。

復興住宅に入ってから落ち着くまでが重要。お茶会は仮設がなくなるまで継続しながら、協力しながら進めて行きたい。

【委員】

在宅被災者の支援について、調査を行っているとのことだが、難しいと思うが、できるだけ多くの実態を丁寧に見て、かなり困っているという声も伺っているので、丁寧にやっ

ていただきたい。

【委員】

在宅被災者の支援について、知り合いの在宅被災者の中には、新聞が回ってこないとか、電化製品も回ってこないとか。大変な生活をしている人もいる。家の中に水が入って、直せず、今もヘドロの匂いがしたり、カビがはえて病気になったり。市内に何人くらい、こういう状況の人がいるということをつかんでいるか。

【生活再建支援課長】

プログラムでは平成２８年５月の状況ということで、これから実態調査を行い、支援していくということが記載されている。その後、仙台弁護士会に２８年１２月から２９年１２月まで調査をしたもらったところ、１８０世帯ほど調査をしていただいている。住宅の再建度が低い４５世帯があった。従来から被災者の住宅の補修については、住宅再建支援補助金で補助してきたが、津波浸水区域被災住宅小規模補助金を今年度から開始している。皆さんに使っていただく中で、直しきれていない方々の住環境の改善を早期に対応していきたい。施工工事をする前の写真を調査することにしているので、どういう状況になっているのかということを把握しながら、補助制度を利用していただきたい。

【委員】

昨日の新聞に掲載されていた８０代夫婦の話。困って市役所に相談に行ったら、木で鼻をかんだような対応をされたとのこと。私は、雄勝の仮設から河北地区の仮設に移転したが、いつか戻るということで、住民票を移さないでいる。選挙があるときは元の雄勝町の投票所に行かなければならない。日曜日なので住民バスがないので、相談したらタクシーで行けばいいということだった。震災で想像もできない暮らしをしている人が沢山いることを、もう少し頭を働かせて想像してほしい。総合支所に行って相談してラチがあかないので本庁に来て相談するという人もいる。年寄の人は、なかなか役所に物申せず、言いたいことを言えずに帰る人もいる。昨日の新聞記事について、反響はなかったのか。

【委員】

在宅被災者ということで、昨日の新聞をみていて、震災から７年たって、床下にヘドロがあって下から虫がわいてくる、そんな状況の方が何人くらいいるのか想像もつかなかったが、実際に、ボランティアをお願いしたいという依頼が去年まで１、２件はあった。

現在も通常のボランティアセンターはあるので、ニーズとして上がってきた場合は、担当者が現場に行って対応したということがあった。

新聞では、具体的な住所は分からなかったが、地域コーディネーターがいるので、コンタクトをとれれば現場に行くことはしている。手を挙げられればいいが、自分のことは自分でやるということで、７年過ぎても、どうしても手を上げられない方々がいるのかもしれない。民生委員の事務局も持っているので、関係機関と情報共有しながら、地域担当職員やボランティアセンターの職員が出ていったりしているので、そういったことがあれば社会福祉協議会に言っていただければと思う。

【委員】

不動産業界で当初から協力させていただいた。みなし仮設ということで、非常にいい制

度である。他の被災地でもこれを見習って、早期に被災者が入居できている。それもだんだん整理されてきて、解消の見込みがたってきたという中で、みなし仮設の特定延長対象外の方々は、いろんな要因があると思うが、平成３１年５月までにはほぼ解消できる見通しだということだったが、その根拠、どのような要因があってそのような見通しを立てたのか。

【生活再建支援課長】

特定延長の対象になっている方々が平成３１年５月頃に再建という見通しがたっている。対象外の方々も順次供与期限を迎えるということで、今年度内に再建をしていただくという考えで進めている。

これまでの支援の方々、８００世帯以上、支援をさせていただいている。そういった支援の状況の中から、皆さんの再建の意向や具体的な進捗状況を確認させていただいている。

ウ　かわまち交流拠点整備事業について

（資料６に基づき商工課長が説明）

【委員】

かわまち交流センターの運営者は誰になるのか。

【商工課長】

石巻観光協会に指定管理の予定である。

【委員】

乗り入れされる時期は。

立体駐車場へのアクセスについてはどのように考えているか。

【商工課長】

交通広場への乗り入れは１０月１日を予定している。便数は未定で、市とミヤコーバスで調整中である。

アクセスは、石巻港インターから復興祈念公園を通ってアクセスしてほしいと考えている。街中の渋滞回避のため、そのような交通計画で進めている。

【委員】

駐車場について、休日は萬画館の前でUターンしてもらっている状況である。立体駐車場に吸収されているうちはいいが、オーバーフローした場合、クレームが出てくる。石巻そのものの印象を悪くして、もう来ないとならないように対策を検討するべき。対策は、観光課や商工課が、実際に予算を持って工事をする部署も同じ見解を持っていればいいが。内海橋の歩道橋も含めて早急に対応しなければならない。

【委員】

かわまち交流センターの建物の入り口近くに障害者や足を怪我した方等用の駐車スペースは考えているか。トイレは１階には多目的トイレがあるが、２階は無い。できれば２階にも用意していただくと助かる。

【商工課長】

交通計画と合わせてサイン計画も立てている。今後、財政サイドと十分な論議を重ねて、皆さんに見やすいサインを作っていきたい。

かわまち立体駐車場は入り口を入ってすぐのところに身障者用スペースを設けており、屋上にも広いスペースを設けている。

かわまち交流センターの正面に、駐車場は作れなかったが、乗降スペースを作っている。自分で運転している方は、そこに一時的に駐車してもらうことを考えている。２階に多目的トイレが無いことについては、授乳室を作るために２階には多目的トイレは作れなかった。

【副会長】

屋形船等、川の活用は想定していないか。

【河川港湾室長】

プロムナード計画は平成２５年に見直しをしており、渡し舟による活用は計画に載っている。活用することは可能だと思うので、利活用の段階で考えていきたい。

【委員】

今、市内で有料駐車場を使うしかないが、市内には共通駐車券が地図に載っているが、かわまち立体駐車場は該当になっていないそうだ。この辺の有料駐車場で買い物をしたときに、共通の駐車券を持っている人だと利便性がある。共通駐車券を増やしていただければという意見があった。

【商工課長】

共通駐車券は、市内のお店で扱っているものだが、全てのお店が扱っている訳ではなく、共通駐車券が使用できる駐車場は一部に限られているので、一部でしか使えないものを市で導入することはできないため、共通駐車券の導入は見送った。

４　その他（全体について）

【委員】

住宅や公共施設が着実に完成していること、市の皆さんの努力を評価したい。これを活用する次世代の人材について、非常に学力が低下している。基礎的な学問が分かっていない。素直さも失っているし、簡単に辞めてしまう。原因は、震災のことで、親も学校も過剰に厳しく対応しないで放置したまま卒業させてしまっているから。会社の上の人間もそういった人材を育てるのに困っている。小中学校から始まって、地元の子どもたちを親や先生たちにまかせていてはだめだ。総力を挙げて小中高の学生を育てることを目指さなければならない。震災前後で学力が低下しているか等も含め、次回ぜひ皆さんで協議できればと思う。

【委員】

次回までに回答を用意してほしい。

新設の様々な施設ができたが、維持管理の内訳、収益の見込み、指定管理の赤字補填等について示してほしい。

【委員】

複合文化施設について、本日２時から会議があり、いよいよ運営に入ってきた。早ければ秋にも着工ということだった。いかに運営していくか。人が運営することになるので、人の問題として取り組む。石巻の文化の発展として考えれば、港町として交流できたということが活力となって成長してきた。交流できる場として成長していくべき。そのための運営方法の懇談会は、石巻以外の専門家を招聘してでも、学びながら進めていってほしい。

【委員】

雄勝小中学校について。学区外で自立再建された方は住民バスを利用しているが、部活をしていると時間が合わないとか、土日は動かない等の課題がある。次回までの宿題として問題提起する。

【委員】

建った後でどう使っていくか、声を入れて作っていくことが大事だと感じた。子どもの育ちについても、お金や力を費やして人材づくりをしていなかければならないと思った。少子化が進み、人口も流失しているなかで、このまちを活性化していくためにはたくさんアイデアが必要。アイデアが出てくるような子どもたちの育て方を学んでいかなければならないと感じた。

【復興政策課長】

保留していた後藤委員への回答について。雨水排水ポンプ場の停電時の対応と浸水対策について、停電時は重油による自家発電装置で対応しており、停電検知器は自動起動となる。

また、浸水対策について、既設のポンプ場は耐水扉により水が入らないようになっており、新設するポンプ場は、高所にポンプ設備を設置することとしている。

５　閉会（副会長）

全体での議論をさらにつなげていきながら、思ったことを伝えていただきながら、次に伝えていくのが大事だと思う。

明日は立秋を迎える。台風も心配だが、災害にも耐え得る石巻を強めていかなければと思う。